

# 福井の原発の課題



大飯原発

## ①県内原発、高経年化が進んでいる

敦賀原発	1号機	41年
	2号機	24年
美浜原発	1号機	41年
	2号機	39年
	3号機	35年
大飯原発	1号機	32年
	2号機	32年
	3号機	20年
	4号機	19年
高浜原発	1号機	37年
	2号機	36年
	3号機	27年
	4号機	26年

再処理も行く先も定まらぬままに無原則に貯蔵され続けている使用済み燃料の実態(表②)。未来永劫ともいえる期間、自らの力で処理できぬ物質を限りなく貯めている。

## ②使用済み燃料貯蔵状況

(2011年3月末)

		管理目標	貯蔵体数
敦賀原発	1号機	909	448
	2号機	1,541	1,016
美浜原発	1号機	128	112
	2号機	395	359
	3号機	910	432
大飯原発	1号、2号機	384	481
	3号機 A	1,873	478
	3号機 B		752
	4号機 A	1,873	547
	4号機 B		768
高浜原発	1号機	216	236
	2号機	216	142
	3号機 A	1,561	500
	3号機 B		525
	4号機 A	1,561	723
	4号機 B		523
	合計	11,567	8,042

次頁の表③を見てほしい。福井県に原発が設置されてから三十五年の間に、県内自治体に交付された電源三法交付金の額である。嶺南でも立地市町と周辺の市町

論理を優先すべきではない。間違っても「安全より経済」の

## 県内原発、高経年化が進んでいる

運転開始後三十年余、四十年以上の老朽化した原発(表①)も数多い。継続運転や地震対策は大丈夫なのか。敦賀一号炉は事故を起こした福島一号と同じタイプである。同一敷地内の原発集中化による爆発連鎖の怖さも明らかとなった。

く所業は現代人の無責任かつ傲慢な生き方である。

## 電源三法交付金の実績 産業別就業人口比率

との差は際立っている。これだけの交付金が地元の経済に寄与してきた事実は否定しないが、将来的にも総合的にも地場産業の真の発展につながってきたかは疑問だ。原発に依存過剰の自治体経営と産業構造の歪み、今回の福島原発事故を契機として関係者すべてが冷静に見直し考える時である。

国内全ての原発が今年二月から大飯原発再稼働までの間、五ヶ月近く停止したが国民生活は混乱もなく維持されていた。この事実は、原発に依存しなければ人も産業も生きていけないという今日までの日本人の意識を変えた。そして福島原発事故を契機として「脱原発」は国民大多數の声となり政府の方向も変わりつつある。改めて、日本一の原発集中地域である「福井県の原発」の課題を幾つか見つめたい。

